

桑苗勸進

養既蟲大益掌

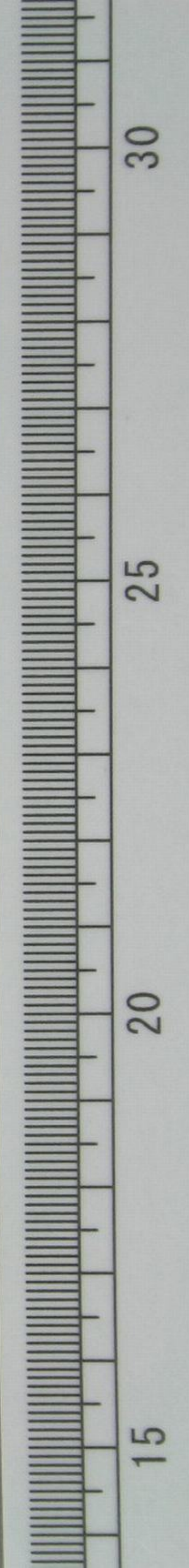
横山萃溪施印



原田織維文庫

文庫 4

662



目次

桑二種ある事	桑苗植様の事	桑畑所務筆當の事
春蚕蠶筆當の事	本場蚕紙の事	刈桑養蚕の事
春蚕日々傳	緞子あみの事	葎蚕日々傳
胤除の事	下糞臭氣の事	臭氣ぬきやうの事
家作の事	松栴山等當の事	

文庫4
662

早稲田大学
図書館蔵書

原田継維文庫

昭和三十年十月二十九日
第一商学部より移管

桑苗勸進養蠶之記

子へ親小孝道を尽し臣へ君小忠義を致し人其地小
 生れ國恩之具加を思ひ身を務め報恩を著る必富貴
 寛樂たらん儲も今般より年々予桑苗勸進施水
 本鎮より蒙免許御國内隅々迄御年貢地之外所々
 挿間山々谷々江桑苗植附養蠶及勸弘二面々一家
 之利潤を以て一家を以て其の利益を以て一家を以て
 載する養蚕の辨の古書小抄諸國今人々口授を需り

多年其法の工拙を改へ悉ふ不利を除き且を舉
唯便利のみを輯録し言々の野鄙を恥じ繁文を省
き有のまゝふ始より終るまゝ其日々の次第を守
授益し肝要を紙一紙ふ尽し置一人々の手を取
為く其のみに要し取も予が憶見を加ふおわび
覽る者社構を陋ることを戒む

抑本邦の風土は四時正しく萬物盛ふ生じ百穀の
豐饒異邦ふ冠たり養蚕もまじく四時の運ふ應じ

余國小秀人々も亦必定たり蚕業は天下毎双に國
産あり農業の暇ふ始終婦女の手業なり養蚕の
道は既ふ神代ふ始に稚産靈日神蚕を養ふことを教へ
たもひ唐土より王后よりこれを廢人ふ教たり又
孟子之所謂五畝之宅桑を植て養蚕を事きたる
婦人の産業は古今不易之教なり古の佛祖たる
聖徳太子曰蚕を養ふは父母の赤子保育つるが如く
蚕を思ふ事我子を思ふ如くせよ寒暖陽氣の加減

平生我身分ふ傲ひく湿ちくべ冷ちくべ平和なる候
陽氣を廻く一昼夜間断ちく精力成はくまへーや
これと賤女おたへたるふかちくべ救生ちく思ふ
大きなる心得遠ひなるなぐ一道理を辨へ根お妖俗の
言談信く惑ふくもくは蚕いゆもかーあは
天子の御衣を始り下万民小至るまじく衣食位のツ
めくくちくて叶くぬ産業ちり夫養蚕を欲するに
種々無量の傳授ありちく諸書小著く一た道でも受く

左様の事ふあへば第一の心は少の乾と好薄を正し
とけ又いひくちくちく大毒之蚕の善悪の性候ふ
叶ふ不叶くふあはさるぬを其性質を欲知者たやへを
諸の虫山野小生く山野小終る性たれを寒暑も厭ひ
雨露も不怨又蚕の家内小生く家内小終る人小養く
育靈虫寒暖用捨の心得も家内小育性たれを格別
寒さを不厭の野小住ひ一ふ等き道理又寒く火中
くく暖るいひにやちりきお近道理たれを不煩は

寒き夏有らば聊火の用意し々も差別分別あはれ
聊性小遠をば養蚕のたさ十年に一年も変る仕損
たつたに之但諸國小無益の雜具を用ひ却る便利の
悪類をさす又候子細等ハ二人の業を一人中々志也
心易成へき類の益を出し婦人の一助小備ふと志あり
練細ハ高淡柏屋清右衛門方あり賣出し以百
命ハ食ふあり乘ハ神蚕の食ちしを食之ししてハ神蚕
ハ養ひがたし先乘法植附る事養蚕の取初也右乘黄

予ガ施木ハ其苗植附たき有志の人々に爲
春冬乘苗何百何万株の多少小不限少も遠きも不及
亦一言の謝礼もいし望小應し可致進上唯希御年
貢地の外所々畠地山々谷間山畠雜木の間或ハ木密垣
等一圃の所へ七八物して耕作もたさかたき土地小裁て
生立木あり又川端水をぬ小植し川除やうひやも
たさ土砂ハ砂地又真土地より必ひ志け地へ植へる夏
益用たり其故ハ小根腐りしきさるうせりたり養蚕

秘事を覚し國々へ或は荒地荒野を切禱き川縁
山奥小植幽谷僻地やいへども番汝養ひく莫太の
利潤を得る事多しきゆゑ面々餘故よりくも軒の
手間のいよゝ一時小敷万株の葉を植る事造作を
利益たる箇條たふ可誌

○世小四木三草五木八草とくあり來ハ四木の一あり
名木たり但し葉小魯葉と荆葉とあり荆葉ハ葉ま
かゝきれとみあり陸小葉實多しとく大換たるとへ

魯葉一及の所勢ハ荆葉五及の所勢小當と云魯葉は
植く荆葉ふくへるもありと荆葉を植魯葉ふくへるも有
る必ひしき捨つるも悪葉前年小印を附置
接だいにさへ三月頃芽少し出時木を地より二三寸
上を切直敷葉の枝を接へた接だいの精葉能き方へ
接へた接穂も裏表あり是を遠をね換ふとる
枝の勢ははより所を接へた次穂ハ東小向枝東に
向く接西小向し西小向は是近有し形小接へた接換

國々種々唱へあり其地の上より小根をとりて

○ 桑苗植附様の率三年生又ハ去年生を植附るは

地を三四尺討も深く堀植附くも一必は根先を豊

とちりて今年生を植附るも同じく根ハ深く堀

苗地より取寸討上を切捨根先も少く切捨土中

二三尺も穿深くやとけ少くくみをと拵へ根元を

深いり小栽糞を入るるも小根地へくはきたるも

亦土沃きを糞法致し置るも是ハ小根早く地中へ

とむくくは爲なるも春の彼岸迄小苗立時一株小若葉

一本づつ育作るも其年段々成長するも随々

苗の葉付の所より若葉多く出る是を尽く摘み

取く真一本小育つるも又葉小青く小く出はき桑の

新葉をまく事あり是は念入尽く取去るべし然る

ざらぬを桑痛むものなり惣じて諸木を種るは土

中を和らげり其供るゆゑを成木したるは桑生垣等

或ハ道がたなど小極く刈桑の志ありて今年生去年

生を極根元より三寸計上切若葉を沢山出し
其年より少く川粟ゆきもより川粟の春蚕
のみと心得るが但し雨統少く川粟しき切口を水小
漬置いど日数をたもつる

○粟苗植附るゆの一坪小凡一本家一畝小三十本一反小
三百本當ふ植ると通例之但川々の堰又ハ畠の土手
或ハ住居の端々小一並二並などの場所少く四五尺間小
植附友々たちの心得あるなきことなりあき間遠小

植くハ友育ふ成がたぐく尤植つけたる後ハ何程養育
強くつたきとも麦種といちぐひ粟小出粟さると云ふ
災々々無乏なり初年二年め勢上へ登る扱の心得は
下へ芽のふきハ依惜もいも取高く成木致さる
肝要之糞ハ世話次第ゆ盛木暫時ハ現るなり
粟ハ靈木なり諸木より甚率遠ふたる

○但粟苗種附不知粟丹之者粟苗五六尺ゆもたぐは
植附ても盛木せむたぐく申は人も折ゆハ有ものなり

全く心得遠しの事なるを棄の次第を知らず人の
江州の魯棄の大苗をよるこび價高く出買得て
植者あり其苗の取木とて親木の枝をたじめ土中へ
埋め置けり若芽沢山ふ出る其根を掘上切を
外へ地へ植へ是れ小糞沢山ふ入る則枝一本ゆ
八九本ゆも成作方之全く未への為を不思唯利の爲
持へ他所へ持行利益をと取の作物也江州長濱郷百姓
商人是は業とて渡世する者多し必し買得不致と

其故の取木の成木甚早し命短く指木は
出るも同道理之實生を種附るの万代不易と心得
春葉赤色なる虫病はく事ある早く掉をとり
拂ひ取る其俣置を後程多くなり蚕小大毒也
又棄去るみやう白き虫多く出来棄の葉痛む有
是も右の如く拂ひ取る病はく土地の棄の根小
煤の類或は蕎麦売等の灰汁氣あるものを置病少
しや云俗小尺取出し虫春棄小はく事あるべし

早く取らるる

○川桑の事飛驒信濃より東國又加賀越後中川桑は

春桑なるを養蚕つた其蚕は少く尤川桑少く其

蚕の出来がたしく春蚕一所務少く半作少く損也

併糸生ハ川桑の方上品たるをされども経済不疎き故に

又養蚕開解の悪習中途ふ改め易る事なりがたき

ゆゑのこれと田地ふたやへ冬春の種麦の軽き物

を作し其秋の稲の重きもの故不作し上田一作を

荒きとも同然なりとて春蚕を飼く其蚕を飼く

るふたやへなるを川桑は山あれを川桑養蚕

弁利たるを唐土ゆへも桑ハ大木は作し又小本は

川桑もつたやへ春甚二季とも養蚕つたは事

諸書不見えたり但東國ハ廣大無辺の山々桑植

るゆゑ信州少くハ大家一軒前ふ春蚕をとり七八

百畝も養蚕致し又奥州少くハ大家一軒前ふ春蚕を

かゝる千畝余も養蚕つたはと普く諸人の知る所なり

蚕の食さへあれを繞一二疊の養蚕も千疊の養蚕
手馴て後の同じと國々の風義千差万別其中小
能き汝撰みあしき汝もふき養蚕の始終を紙一紙
小尽し置たれを聊外小尋の求むるに交しあ
るくらげ必しも疑ふまじき事なる

史天官書云正月上申日東風吹ゆ其年蚕上作也
竜奠河圖云蚕の汝と家の戌亥の方小埋れ其家の
蚕必繁昌と云り東方朔云正月元日風吹げ天

氣晴明をれを其年蚕よしと云

繭の數三千餘ともつ縮一匹と成てこれと思ひ

糸一尺あても麻未小致にる

禮記月令云禁婦女毋觀省婦使以勸蠶事云云

蚕初より親類音信も疎畧たりと云
婦女も髪をたら糲もかまへば手後けをき扱小心を
尽ひだし終四五十日の法とあたり婦人なり一匹小
こぞりあひて無益の長嘯し小時をうけ小周章を

桑を取らざりし桑の梅をど魚未少く桑のあてむ
ひらだけ飼方疎畧少く不作あること極まり
年の運望がまゝ我が運の悪しきを云ハ夫々
心得違ひを蚕生く食らる虫をれを暫時も変化
あるを或ハ夫婦喧嘩又ハ家内口論を蚕捨
扶持と与ふる人あり様の人ハ養蚕ふかぎ餘
事にも知らぬ謹む家内和合されを
自然と上作少く富く家を潤はると天然の道理なり

○桑苗を植附く其益を取算當の畧
但し九く生糸
一畝代金五拾兩の

算當たり近來ハ金百兩の代金も
成れぬ見ゆる人故僞益とやむ
の畝少く春甚二季の摘桑目方二百七拾貫目前後ハ
有之養蚕の遠凡三拾五計の糧小當蠶凡十八貫目
余取納あたり操系か系小仕立正銀凡四百目余の
所務之右算當大畧次ふ志るは三年めより上田
地一反の所務より桑畑一反の所務按群益多の事
但し桑木三百本苗を諸所空地へ植
むけの上田一反を求め同樹あり

○四年めより年々増ふ所將多しく六七年来り一夏の
 畑少く糞強守護次第少く春甚二季の来目方
 八百五十貫目まづも有之蚕飼凡百畧令の粮之但一冬
 分始終の粮凡八貫五百目多蚕飼百畧分の蠶目
 凡六十貫目但十年平均蚕一冬も蠶目六百目ぐに
 春蚕の大蠶凡一割半甚蚕の大蠶凡二割半
 くりまゆ百目此糸目凡七分五分十年平均七分五厘積
 大まゆ百目此真綿目凡八分十年平均八分の積

但かゝ糸小繰りてもかゝりて目凡八分

標糸直段 銀十文糸目凡二拾目ぐ十年平均
 から糸直段 銀十文から糸目凡四十五文ぐ十年平均
 去綿直段 銀十文去綿目凡四十五文ぐ十年平均
 右上品下品平均荒増の筆當たり
 ○六七年目極上作り魯来一夏の畑少く来目八百
 五十貫目の蚕百畧分此蠶六十貫目取納當り
 △此丹大まゆ拾二貫目引但春甚平均大蠶二割

引残りくらりも四拾八貫目

坊葉高皆
系箇金平兩

坊くら系目三貫六百日 但七分五厘

之刻十兩
百兩之相場

坊代銀 三貫二百目 銀十貫系目三拾貫目

前前後後
所不考

大まゆ 拾三貫目 但八分

前後
所不考

坊代銀 九百六拾目 但八分

前後
所不考

坊代銀 貳百十二分 浪十貫が系四五貫目

合銀を費四百十二分二分

坊内九銀四拾八分 本場蚕紙三枚代引

又九銀三拾五分 其蚕種紙代引

右引残り銀を費二百三拾目三分

右春蚕其蚕二季桑畑三百一反の所勢兼當之坊後の

所勢守護次第よりいりまても年々加増波止む

○荆桑ゆへ右魯桑の五分一ハ毎覺束格別の大損之

されを魯桑一反本二百毎歳を費三百目余の所勢ハ

上田の所勢九七八反の利徳ふ當りなり近年の生糸

直段小引當り一町四五反の所勢ふ當り是桑三百

本を植く養蚕をせし新地一町四五反を求め同授也
其有益華紙及びびがたき事どもあり

○

通例の守護糞ゆり右半減ゆりも正銀六百六拾目
余の所勢こそれが古来より養蚕仕来る土地ゆり
農家の豊饒無甲乙家毎小富采勿論耶も農業の
障りふちゆりび女の手業小春蚕終小四十三五日
其蚕二十三日五日の間ふかくの如き富を得ると天下
毎双の女功たれば養蚕ちり土地小養蚕開けり

農家の豊饒の右の利益をもつて考ふるる

○

夫蚕の衣食住の一ツを工をせざる業ゆり天下小
毎之ていちゆりび人小飼とて育つ靈出たれば風土の
變り変り構をゆりことゆり異國少ても寒暖の國々
我朝ゆても奥州の寒國或は飛騨信濃の山中越前
丹後但馬の海辺等寒暖風土へ變りゆりも素相志
の土地ちりゆり數千百家の農家古今毎退轉養蚕
仕来る麦種田植耘ゆりも農業の邪小變り

わくしゆらるるに正しき證の出羽奥州越後江州皆未國之
順る生糸多分く産國々々

○春蚕の種紙の奥州の寒國ゆゑ製したるを諸國の

暖國へうつし養蚕つたゆへ育よくこれを本場蚕紙と

唱一枚種目十六名つ小仕立現銀代金をき歩賣弘

むる事諸國とも同扱之右本場蚕紙一枚して蚕

飼十六名揚る畜之尤格別守護より一時二十名

余も揚るものたり但蚕紙一枚養給ふに家小六割

四ツ割八ツ割を截く賣弘はたり

春蚕日々傳

○正月下旬より八十八夜迄蚕棚の用意をいたし又

古くは古くの表を川ゆ晒日ふ干乾し用意

つたし置くる蚕の性の第一乾をよるとは古く

古くゆゑ雑ら蚕飼つたせの乾もよゝ殊に費

ちやく便利より國々の風儀少く室より葉た籠

其外種々毎量の毎益をり道具を用ひ殊に間狭

家めての數十琴の蚕飼の成りて道具少きが宜し
又釣棚組棚ゆゑ蚕飼つたせは六琴の間ゆゑ段は
棚六段ゆゑ春蚕二十四置其蚕二十四置十二置
の間を以て春蚕二季九十六置を出来るものなり
餘りこれ為準とす

○簇糸細ゆゑ養蚕つたせは一人筋の手業子春蚕十置
其蚕十置二人筋春蚕四十置三人筋ゆゑ春蚕六十
置當凡通例也故餘人數の割是ふちとす

○蚕稚ら蚕下ふさくもを敷紙ゆゑ養蚕つたせ
ちと紙の濕を含みよらるゝからげ又四方に紙を張
火鉢おゆゑ暖るちるやう是の薬彼の毒ちと無理お
こしらるゝことども不残天性お背き交りて悪く但し
春蚕の烟ゆゑ飼其蚕の風ゆゑ養蚕つたせこれおま
春蚕を烟ゆゑ飼つた臨時の不順ゆゑ格別寒
と泥の遠火を焼自然ち家内を暖る心得を以て
其蚕を風ゆゑ飼つた格別お蒸暑者向天はさき

ちかどふの戸口くくを明昼夜とも自然と涼しきやあ
心得をとりふ蚕の天性ふ生ると天性ふ終るかたうけ毎
理ふらうらう考くことと変くくあう隣ふ戸さびと
見く戸さびのるくく隣ふ戸を明るを見く戸を明
るくく陽氣の其家くく遠ふちり考ふる

○八十八夜前後蚕生る二三日まへ蚕紙青みまると紙
蚕紙を紙めくけくみ置る外へ遠出ちくけけ
くくへちり綿めく色むと変くく悪く

○初日生出るも其俵ふいたく壘二日め小生出るも其
まふいたく置三日め小生と出たる時蚕紙の上へ葉
をちりくくはかきまると沢山ふちり又色紙へ遠出たる
めも葉をとりまへ直様蚕葉ふけきたるは用意の
古く布の上へ鳥の羽めく葉とともふくく掃おる
く灸着めく葉と共ふくく薄くむくちりやう
場廣ふひろげ蚕棚へあけ置之蚕紙一枚をぬん九三
尺四尺討ふ廣げる別く初日葉一二度見合

○出残たる蚕紙はもとの紙の色置其日の昼後
生出るも翌日生たるも其俵小いたし置未出残り
ひつ三日めの昼前小糸の掃ねらむこと同前
但毎日生出るを毎日掃ての品数多をうて無益の
こふ後々追手間とるに六ヶ敷はもう但今日生たるを
明日掃ての必悪と或書小著したるは天性を不考
誤哉たへば赤子の生たるも三五日乳をつけばも
少しも障なき事養蚕小能なるむあなり

○二日め桑薄うづば厚うづばむちやう小養へ
但暖氣をうづば蚕喰進むゆへ桑四度寒かれば喰
不進ゆへ桑三度其日小當ゆへ蚕がをうへ自然と見
者之後ゆへ桑をうへ但桑のやをうづばむちやう小切ては
三日め蚕下高くちやうむぎ温ゆへ場ぐへちやう蚕下の
古桑とともふころうと巻く乾たる別のむちやう場下と
かへ古桑とともふ随分薄むちやうにやう場廣ふゆへ
これを場下とともむ尻ぐへも小切もとのむちやう小

乾し置せんぐりくふいだまをなまき事 寒暖の極子に

桑四五度見合

○四日め桑四五度見合蚕小前につるまをやう心を付べ

○五日め蚕下高くなりむぎ湿るゆへ前のこく古桑や

とふころくと巻く別のこもへ場不ぐへつたり冬着

ゆへ薄ひらげ段々度毎小場廣小致事 桑四五度

○六日め寒暖の極子ゆへ桑四五度

○七日めり八日めり寒暖の極子ゆへ一度小居けり桑を

不喻一日計動るは居るなり其時蚕の鼻をけり事

毎用たり蚕夫よを起り次第く小頭白くちり大く

成ふつけり場廣く随分乾きたるゆへへ尻をへ是より

初り蚕下の古桑めくれぬやう小居尻へ事右居尻

へたる後桑ちりくや常よを薄く度数多く根桑

とべへ是をよを桑とも又せめ桑とも小但りの桑なら

びりての居残又起蚕出ざりうら塩合を見り桑を止

る事其時小臨り自然と蚕が教へり別り覺り事

○春蚕の来を留たる刻限より凡九二日めふ當る刻限
 少の不残起揃ふりのと未起揃さるら来付て蚕不
 揃ふらると不宜いりやと来を志つめても少も養へば
 かちうづ起揃ふる塩合を見くも細といふ細さけ
 其上へ来付く直枚蚕来ふつたたるを迄へ尻とへ
 又是よりとをドめく迄めく養蚕止むべし其後ハ
 庭居二度起 庭起 都合四度の居起ともより来の時起蚕出
 三度起 庭起 加減を見く来留る事又凡九二日めの刻限不
 不残起揃ふたる塩合を見く細さけ来つけ止枚尻
 くる幸一四度とも亦小同ド其日小南へがよ塩合
 蚕が教自然と見覚は事
 ○候細の機め織たる細めく本細よりハ價も格別
 下直めく殊小蚕下もつづ又細の結めを記也蚕も
 本細よりハ別く便利しく二人の業を一人めく士も
 心安く出来の新製之勿論蚕終後川め洗濯候と
 置へば一代も二代も痛ざらぬ之置所前ノ用心を

春蚕の来を留たる刻限より凡九二日めふ當る刻限
 少の不残起揃ふりのと未起揃さるら来付て蚕不
 揃ふらると不宜いりやと来を志つめても少も養へば
 かちうづ起揃ふる塩合を見くも細といふ細さけ
 其上へ来付く直枚蚕来ふつたたるを迄へ尻とへ
 又是よりとをドめく迄めく養蚕止むべし其後ハ
 庭居二度起 庭起 都合四度の居起ともより来の時起蚕出
 三度起 庭起 加減を見く来留る事又凡九二日めの刻限不
 不残起揃ふたる塩合を見く細さけ来つけ止枚尻
 くる幸一四度とも亦小同ド其日小南へがよ塩合
 蚕が教自然と見覚は事
 ○候細の機め織たる細めく本細よりハ價も格別
 下直めく殊小蚕下もつづ又細の結めを記也蚕も
 本細よりハ別く便利しく二人の業を一人めく士も
 心安く出来の新製之勿論蚕終後川め洗濯候と
 置へば一代も二代も痛ざらぬ之置所前ノ用心を

早稲田大学図書館

011488479620

○き度起より二日め秋後段々蚕生長ふ随ひ来荒心得

よりり寒暖あく来三四度但春蚕の初より庭居迄

一日間小尻をかへると庭起後の毎日尻をうへる事

○三日め蚕下高くたかり慈志あるものゆへも細まうけ細

の上へ来をうへるべ直扱蚕来ふつきたる時細の端より

蚕と共ふまきとくと巻く乾たる慈の上へよりあつむ

な記やう隅々追場廣小ひらげは事秋後庭居まで鏡子

細みく一日間小尻うへる事仕扱同断又尻をうへる度

しふ飽まゝ薄むらち板場廣小致幸 粟四五度見合

○四日め 粟四五度

○五日め 哉六日め 寒暖のりやうめく二度小飛けんを

ト細まけ粟をふら蚕業につきたる時乾たる遠く

尾をくまのぞんくむらちまやう場廣小いたまふ

粟手めひちくむ起蚕出けらうち塩合を見く粟留

一度居同前的心得忘るべし

○二度起 粟留たる刻限より凡九二日め小起標ふたる

加減を見、細まけ粟附起尾く事、寂小同ト

起標をばらうち粟付てふ蚕不孫小成事必忘るべし

○二度起より 二日め 蚕生長小随ひ 粟荒切ゆり 粟三度

○三日め 蚕下高く送まらりのゆ細まけ尾く度毎

小薄むらちう場廣小いたまふ 粟四五度

○四日め 粟四五度より 氣つきらう氣の通ひる小板板の

木あゝ割まふ

○蚕の氣の好物たる其用心厳重小いたるべし 氣通ひ

通ふこんあやぐ玉とさりけけくすし其の葉を多く紙
ふ色み嵐の通道ふ置るゝ物の両眼と狸の陰囊とを
まじり合せ通穴をささげん嵐外へ行たり救ふさぐべの
葉付を穴へつめ置もよゝゝ氣通道ふ食物を置もよゝゝ
丹波大原大明神守護の札を張置るゝ
○五日め哉六日めり寒暖のもやうめゝ三度ふ居けけ
細をさけ居居久より葉をわけらうを起蚕出さる
うら塩合を見ろ葉留る事糸のこゝ忘るべうら

○三度起九二日めの刻限不残起揺たる塩合を見ろ
細をさけ葉つけ起居久る事蚕不揺ふたうらさるやう
忘るべうら但二度起後の今日摘とる葉を明日の糧の
用意と心得るゝ自然雨天續の節用意ふ摘溜刈
葉成し露をけけひおやゝゝ大團あゝあぎ乾し葉
せんぐり貯置るゝ其外庭居まゝ諸事前お同ド
○庭起後の葉丸葉ふゝ毎日六七度ワ葉量次第ふ葉
沢山ふ養るゝ葉乏くゝの蠶糸目とも交ゝく不回膠

又庭起より荒目のも細めく毎日尻久へる事急ぐべ
庭起後の今日楠たる葉の明後日の糧と三日の
用意せんぐりく貯置べし雨天後の節之を授
心得あつて但葉を田く少も不痛々た九八を問ふ
葉三十貫目隅より隅まじりてちかくひろげ風の
ざりやうめく段くより取り少も不痛をいさり
なめだちまきや心得べし

○庭起い日より寒暖のりやうめく六日めり七日めり揚る

もの飽まじり葉山ふ惣量次第養る若雨天
つまみせて送り細干乾たき時炭火めく飽まじり
乾し随分ちめだちまきやうみ冷く後尾久る事葉一乾
を好湿を嫌といさりちめき法嫌と必とほるべうらひ

○六七日め揚蚕走出ら九一五の送より春蚕の走蚕
五六七十より拾たる塩合めく不残こぐちびろひふ
揚くよう若揚くかゞ但蚕揚め宿と中々國
色くの風儀あり江州ハ葉法と三丹ふの祭又く

の木をどとを用ゆ兼種かろちをふ交りて無用なり蠶
甚よろりかろげ

○春蚕ハ揚日より五日め小蠶に成但一畝の蚕中

蠶六百目なき通例也但庭石までの随分薄をとりて

庭起後の桑さへ沢山小養せむつちと厚も養ろげ

一畝の蚕ふく蠶を廿目にしてまでも有之もの也

○蠶をうけたる後一畝の庭棚へ蠶二廿目の多揚をて

いさろりめきろく不直一畝小蠶二廿目つひろげ

○揚日より五日め小蠶をうけた其日より直糸に換

り寒冷をうけたる蠶のうちめく蚕のまをさかへ

糸目少く損したる蠶六百目少く糸目八分出時

糸目六八四十八分又蠶八百目少く糸目六分出時

糸目六八四十八分同ト九九のこ糸目二百分の損

益有養蚕ハ糸目少く糸目無之換益の兼當甚大切なる

糸目少く右身一魯桑荆桑の損益より糸目多少の換益を

終るまじく糸をつくらて考事なり

○揚目より九日めり十日めり蠶より虫出るまぶとも
いひ又うづともいふ又十二日めり十三日めり残るは蝶
出は右ふと蝶出たりもやふたりがさされは
蠶より日ふ下置ての膏ゆけ糸小艶ちかく別く色あはく
大損く六日めり十日めりまぶのうちに生蠶めり多ふ
採へる緒よく出糸の艶もよくまぶ上糸とされがそ
糸取手間少く十日めりまぶの中生蠶めり糸に取は
ざる分の蠶めり蚕蚕棚へ上風のあたるぬ換紙

或は古き衣服めり廢るるにいはまぶも膏ゆけは
糸味不悪但か小蒸日限ハ揚目より七日めり限は
糞加減の塩合手馴る後自然と覺らぬや
○最初糸を植附段々成木し何年めりあは一反の相
元糸何れと養蚕一むり分ふ始中終の根元糸八受
五百目當後く本場種紙ハ割分めり蚕二むり分
四ッ割めり四むり分半分めり八むり分一枚十六むり分
あはる當の積を立八十八夜後糸蚕紙青糸一時

紙少く包退保生蝶みく掃より至後糸小終出の
の次身損益より小不洩紙一紙小尽置の其日小通而
間見の包一蚕をそくへ十年小一年も仕換へて之や
さて又其蚕ハ半其生若後小生れ糸小終了養蚕
二季の不勢まぐ紙一紙小尽一置たれハ常ハ肌身
紙をなまざる其年々桑の盛木小随ハ蚕飼多少の
積まぐ鏡小影の移るがごとく安々と養蚕出来奉
夏蚕日々傳

○夏蚕の種ハ春蚕とハ別種之但諸蚕とも斤其とも
女蚕とも國々俗異名あり蚕紙の製ハ八十八夜前
後小右諸蚕生れ五月節前後小終るまぐ桑之
ざるや守護のたへ宿へ揚るまぐ春蚕同換の守
護之ゆき揚は日より至十二三日め小蝶出たると岩國
斤折紙小限其蚕の種紙と製は奉之
○蚕紙小製は日より至又十二三日め小其蚕生きたり月之
たへハ五月節の日小諸蚕揚るへ半其生迄廿四五日

めふ生れつづると古今日数同新之尤寒暖少て一兩日
の遅速の有之もの之但種子製らるゝの筆の書取ら
たぐ尤壘より蝶の刻限の何時又紙へ蝶を移し
何時紙より蝶と落の何時とつ時とて行儀正しく
一刻も不変急度極たるものや傳授口傳おのむら
りたつての變々々々無之へども文面めていりうら
てられのちせん
手馴る後自然とおかえの事
其蚕種の目方五分ゆく蚕一尋揚るもの之尤守護厚く

くへ五刻増まても相成りの之但春蚕の飼方に格別
心易守護いたしよ此の之殊小日数も終廿三五日小
金く終りの之最初蚕紙より生出る刻限已時おさ
ると出採ひ自然出採とも翌日の已刻おの不採出終
りの之ゆへ一度居よると庭居まぐ四度の居起も行
義正しく已刻の未刻限居起いたまらるのちり但四ツ
時小居静束留くが翌日の四ツ時おの起採ひま
ハツ時小居静束留くが翌日のハツ時おの起採ひ凡一

○ 昼夜ふさふさと居起いたまひのこゝろ寒暖晴雨の
違ふくまきまきの一の用捨くらゐあるなり

○ 甚蚕ハ暑氣ハ生る暑氣ハ終格別急性償をんが
寂初より来多くと性ハ透ひ又蚕下高なるより暑

○ 氣ぬくいきりちめた是亦性ハ特大毒之初より庭居連
毎日一度ハ尻ぐへ庭起よるを揚ぐ連の毎日二度ハ尻ぐへ庭居連

○ 蠶暑又ハ雨天續あつひハ西南風オ少くハ昼夜並立難
凌ちよの不順ハハ生類たがと暫時ハ腐敗のや

○ 因茲必蚕下かび出あめららの之何時臨時の不順を
たかアがた一日ハ二度も尻をうへ猶又少なるをやも

○ 添しく凌よ記やうの心得ハ家内の焼火も用捨有へ
夜分ハ口々を明其外常々とも大道のいきりちめき

○ 家内へきくまはるやうの心けまはる高日ハ夜ハ心を
付野ハ住虫ハかきさるやう万端性ハ肯う不肯

○ 戸のふく穴透間風ハ陰ハ寒紙中張へ

○或年大雨冷風をけし家内ニケ不程火を焼く程
能陽氣をめぐりて上作せし例あり又或年庭の起る
暑氣つよく南風をよきしる表の戸口へ唐箕を出し
内へ向く風を入しるが如し暑小のたまはるなり
まゝ大園をとりし家内蚕棚の間をあき廻りし
くば上作せしとぞ凡そ其道小丹誠をねむを自然に
回しき工夫も出るものなり
生出るまへ古ごごたるの表干乾し用意有べき事

○初日己時小行義正し出様一時来をこまかく掃
換春蚕同新り出様たりとも其蚕の急性質也
今日生出を明日掃ていせし悪し若出様しつ翌
日四ツ時小二番を記前小同し初日より桑五六度見合
○二日め蚕下高ありしゆへ古桑めくれぬやう小桑着はく
尻をうへ春蚕と別く落むるを記やう場廣小致り

其蚕一斤側むらで居るものより折る箸少くむら哉
 直しゅうやう心得 来六七度 折る 嵐の用心くらへむ
 三日め蚕下高ちり古来めくれぬやう尻をうへ段々
 一日く飽遠薄むらたにやう場度小波まき事尻か
 居る度とふくむるのよし醒れふ心と付べし 来六七度
 四日めく五日めり晴雨のりやうやく一度小尻かけう辛早
 居尻久飽遠薄場度ゆたきり来手ぬけを記やう
 但其蚕ハ朝四ツ時小尻静来苗江又八ツ時小尻静

来苗ハ丸丸晴雨の候子やく一箇あもつひぐしとく
 急性をんが起蚕出きうら塩合を見く来苗事但
 みる来ハ常よりうらく度く養へ
 前日来苗たる刻限よる昼夜九一日小富刻限小ハ
 不強起様ものたる来起様ざらうら来付てハ蚕不様
 小なる不強残らび起様たる塩合を見く候子細を
 うけ来つけ蚕来ふつけ時細の端よる蚕とてふふ
 ころろと巻乾たる筈へ尻をうへる一度起よる筈ゆ

養蚕に於て、秋後段々蚕成長小随ひ来荒きり養へ

乗六七度

二日め蚕下高く細をわけ尻久段々飽まぐ薄く場
廣小いねきとん〜乗七八度

三日め四日め晴雨少く二度小居けり手なや

居尻久少と乗手わけたにや常よるに度々養へ

少と乗不足〜く巨か〜り又起蚕坐ざる〜ら塩合淡

見〜乗苗幸此後三度起庭居同扱のころえ唯々

尻と〜る度毎小飽まぐ薄場廣小いねきとん〜又庭

居ま〜る段々乗あ〜くきとる養へ

蒸暑雨天續あるひ西南風ホの臨時の不順ハ何時こ

きあ〜ともけ〜るがた〜前小志〜る通忘〜る

い〜るにわ〜る蚕下〜る性雙小〜るか〜る忘

居〜る乗の蚕の食〜るも若〜るを〜るに醒〜る

乗と一度〜るも養〜るに忽〜ら仕損〜るの〜るや養生

小葉〜る乾小志〜るに飽ま〜るで冷〜るに心得〜る養蚕致

さば十年ふ一年も飼損じらぬ事

○庭起の来づけより来九葉ゆく養るべし但庭起後の

荒目のも細ゆく毎日二度ツ尻入るるとかたきり急

べうり但庭起の日より九六日めふの揚るりのあり

毎日来八九度ツ別段毎夜夜半より一度ツ急

次第来沃山小養へ

○最初より庭居まぐいざん薄く養へ庭起後の

来さく沃山小養へいざん厚く養へかきり蚕一

卵ゆく蠶を貫目まぐ有るりのこ

○其蚕の来痛く明日の来の困とも三日の来持

かた但暑氣の節ゆく自然来りたりあきなに

やうかたきり忘るべし

○庭細を日ふ干乾の後若やめ尻冷ぎる庭へ尻

くくの間仕損じらぬ乾ふありばさすふお志

かたきり家内の者まぐも能く中合置へ

○庭起より五日めり六日めふの揚るりのあり其蚕

急性質たるはび一羽の遊ぶるを走る蚕二三十をとり拾ひ
塩合少く不残ごとらびろひひ小揚くよき着揚ひ
くくかびあひやう糸小同ド

○其蚕の揚は日よるを四日め小蠶成りて之蠶くきり翌日
よるを糸小揚くよき生蠶めり取得する分其蚕の
六日め小限燵ふく養蚕棚へあけ置紙紙りまたの
古衣服お少く養風のあるぬやう設置くびり
まぐも膏わけやまびい事

○住居の近辺ふ多葉粉を作と用捨あつたを
生茂を脂志んへのりり炎天ふあは臭氣家内へ入
りて大毒之廣野少くも衆畑近辺小煙中生茂炎天ふ
照りあはたる臭氣縦令半町一町隔ても吹送れ
風衆の葉小移りて紙摘一度少くも養く大毒即
死らねたを来とよ

○廣野少くも畑へ下糞成りけたる後火天小照あき悪
臭堪がく右半町一町をり隔たる衆畑少くも悪

臭のわめは葉の葉へ吹移しを一度めくも養へば
春蚕其蚕も煙艸葉の毒同断これと糞葉と
たむと葉并小糞葉の毒めきやう 醫言は葉拾置目を
遠七八尋をうりやう 四方より包上へやう 能遠治付
志むく置へば葉火のくくいきりたる場合ゆく 遠を
と里日蔭みく随分薄くまらたやうふ廣け一兩
度も手を入よく醒しくくさるもり毒わけぬも氣違
ち心餘りいきまるとるの葉痛りやう心得ありべ

又いきらとを冷しに蚕の近辺かきくば用捨ありべ
右二品の毒常く申合め置べ
いきらとわめは蚕下のくびを忌嫌ふく数十度著
置とくも是より仕損大切の事やう蚕糞たも
家内近辺小夥しくつら置てふらにまわめこの臭
家内へ入ものゆへつら心得あるべ
春蚕の煙艸葉生茂らばたむ葉畑近辺小有も
脂のわめはちきやう研も構ちくさく又下糞の悪臭

も只今烟へうは来りぬ毎々うち聊構たり火天の
やめぬ臭忍べへ又六七日も正悪臭退し待て来搦じ
○家丹めくたれと吞たれと交し毒少の相成じ
たれこの烟蚕へ吹けりも必じ毒少の成申さば生烟
叶の毒を忍く俗一同忌嫌とも生たれこの臭氣と
味じ愛じぬたれ

○家内少く魚鳥汝者焼其外色種々の臭おを彼ハ毒
これハ藥ちど毎量の忌嫌と申傳ゆれども用らふたれ

畢竟愛小濁りの類めくささき益なき事や

○家作ハ暑湿を除る候小高く作るべし空ハ風殺の元
又ハ窓多く明東面北小戸を明る南ハ小窓めく
日の照るむを嫌ふなり西けの家ハ夕日の火氣は
蚕をいため損矢多し秋家の西の方小樹木してもう名
火氣浅くせぐなり又あめ記し神庭起より性悪く
成へし其道小一心のたれし肝要たるを只其家の
陽氣加減ハ我身をもつて覺る事志あり

○蚕飼辛剛一國々少凶か〜んとの危踏ハ更小なり也去
適蚕の性質小叶々此非常の不順天災少ハ不及人力
五穀の飢饉も同然之其外十年十年不獲の多クハ
あるものこれた〜ハ農家の稲妻を作ア〜小春ハ耕甚ハ
耘秋收の守護迄も手馴〜ハ凶〜んとの危踏ハ更小
ナ〜〜〜ハ万一の不順少ハ飢饉〜ハ小〜ハ此也
もあ〜ハ其外十年十年豊凶等〜ハ〜ハ養蚕
も一体ハ夫蚕ハ能操た〜ハ善〜ハ不操〜ハ惡〜ハ

若自然不操小〜ハ思〜ハ是を操直少ハ一度居二度
居三度居庭居四度の振来の時小限直〜ハ但
振来度〜養〜ハ不揃〜ハ居残居静〜ハ〇〜ハ細を
〜ハ養〜ハ居静〜ハ下小残居残〜ハ浮蚕ハ
来小付た〜ハ別の庭〜ハ移〜ハ二通〜ハ振来教〜ハ
春蚕其蚕〜ハ同断右四度〜ハ必振来の時小限直〜ハ
右紙一紙を暫時も肌身法〜ハ最初生出〜ハ
糸小終〜ハ〜ハ其日〜ハ小當不〜ハ周見〜ハ養蚕致〜ハ

バ次葉とと蚕のまゝ鏡小影の移るが如く千小
一ツも仕損じの無乏りのちる

〇

響バ持山一町六十間四方松栴一ヶ所有之五ヶ年と
累々葉と成之松木葉少々代銀一貫二三百
目より二費目ふ不遇右六十間四方小雜木薪山八九
年十ヶ年累々代銀貳百目ふ不遇右六十間四方
三千六 坪所へ葉苗去年生を植附は時ハ一坪ふ一本植
三千六 坪本今年ふ未五ヶ年平均一一本葉代

五分上ると見く一ヶ年ハ一貫八百目上ルケリ五ヶ年
合々銀九貫目の葉代とて相成之六ヶ年より年々
一倍一々一本の木より二三分ハ上ル之可思去年より
錢少もたつぬ小松栴山も今年より毎年守護次第
みく二三貫目より百兩お近き大金を得るも是山主
の心得一ツたつり

因ふ言松の木山の切株残之ヶ所へ葉を植之を
盛木早しこれ全松根こやしとちりゆへ之山上ふ

松林有^り其下^へ来^を植^はる^る衆^多分^きを^在矣^と

と^ちり^し山^上より水^氣下^り故^に右^に出^羽庄^内

人の物語たり

眼前^に損^益の鏡^ふか^け不^く荒地^も相^見へ^毎用^の草^木

生^茂里^徒空^地と^ちり^の歎^しも^度た^るや^蚕農^の

民^の助^成國^家と^潤け^茅一^たり^て養^蚕飼^方功^者の

人^の年^々小^利徳^を得^其餘^力少^く田^畑多^く持^ある^じ

荒地^開け^たて^て富^貴百^倍ち^りて^一家^をつ^つ新^し

の如^く況^や一^郷一^國か^くの如^くた^るを^世に^富四^方小^溢

國^の豊^ちり^事春^和の^誠小^理徳^安民^の急^務と^謂

つ^どろ^光陰^の夢^の如^く七^々年^十々^年過^去一^以前^の

思^ひを^ちり^て未^七々^年暮^行の^早き^事思^ひ知^る

た^る人^我國^と異^國と^議論^ある^誰ら^異國^と善^し

と^せん^や大^日本^をを^惡し^れと^思ふ^人は^たり^其中^に

も^も其^國の^人我^國を^最上^の人^情の^常

也^と然^るべ^き事^をり^さぬ^は小^生の^當時^在京^の身^に

ちりれども御國の生産ちりれども故郷忘れがたく此の
 産國の報恩もゆもと御國益繁昌を勧むるなり其繁
 昌則面々家々の潤沢と相成花奢の變風を沿革し
 實の朴盛産の地とちりれども永世御國內の御繁
 昌成慮る厚志の人ふ土地相不相ちりれども愚者の頑
 論ふちりれども一よと始るの古諺あはれ予がこの
 来苗勸進も同志を乞ふ數十百千万株の多少不
 不拘隨喜々々施來植附の神速ちりれども事成希ふ
 くれ予が年来の志願ふちりれども

于時文久紀元辛酉歲

華溪横山信平識



塊一帖ハ座右の玩物ふあはれ世用の
 爲ふ著ちりれども不を全意しりれども
 反古とちりれども棄るにちりれども